

『甲南の100選』



100周年を記念して、かねてから考えていた『甲南の100選』が完成しました。この「100選」は60回生から73回生までの卒業生が高校3年生の時に在校生に向けて推薦した作品（高校生向け1冊・中学生向け1冊）と、67回生から75回生までの中学2年生が、4月に入学する新入生に向けて推薦した作品から選出しました。100年後はどのような世界になっているのかわかりませんが、今後もずっと読み継がれていくと思われる作品です。それぞれのおすすめの文章も載せています。どの作品も図書館にありますので、是非手に取ってみてください。

2020年11月27日

甲南女子中学校・高等学校図書館

『甲南の100選』 目次

	通し 番号	著者	作品名
あ	1	芥川龍之介	『蜘蛛の糸・地獄変』
	2	芥川龍之介	『羅生門・鼻』
	3	浅田次郎	『蒼穹の昴』(全4冊)
	4	あさのあつこ	『バッテリー』(全6巻)
	5	阿刀田高	『アーサー王物語』
	6	安部公房	『砂の女』
	7	有川浩	『図書館戦争 図書館戦争シリーズ(1)』
	8	生井久美子	『ゆびさきの宇宙：福島智・盲ろうを生きて』
	9	池田香代子 再話； C・ダグラス・ラミス 対訳	『世界がもし100人の村だったら If the world were a village of 100 people 』
	10	井上ひさし	『父と暮せば』
	11	井伏鱒二	『山椒魚』
	12	上橋菜穂子	『精霊の守り人』
	13	内田樹	『日本辺境論』
	14	江戸川乱歩	『怪人二十面相』
	15	遠藤周作	『沈黙』
	16	小川洋子	『博士の愛した数式』
	17	恩田陸	『夜のピクニック』
か	18	梶井基次郎	『檸檬』
	19	金子みすゞ	『わたしと小鳥とすずと 金子みすゞ童謡集』
	20	川端康成	『掌の小説』
さ	21	坂口安吾	『桜の森の満開の下・白痴 他十二篇』
	22	佐藤愛子	『九十歳。何がめでたい』
	23	佐藤多佳子	『一瞬の風になれ 第一部 ーイチニツイテー』
	24	椎名誠	『岳物語』
	25	志賀直哉	『暗夜行路』
	26	重松清	『きみの友だち』
	27	司馬遼太郎	『燃えよ剣』(上)(下)
	28	菅原孝標女 著;原岡文子 訳注	『更級日記 現代語訳付き』
	29	鈴木孝夫	『日本語と外国語』
	30	妹尾河童	『少年H』(上)(下)
た	31	高村光太郎	『智恵子抄』
	32	竹山道雄	『ビルマの豎琴』
	33	太宰治	『人間失格』
	34	太宰治	『走れメロス』
	35	田辺聖子	『おちくぼ姫』
	36	谷川俊太郎	『自選谷川俊太郎詩集』
	37	谷崎潤一郎	『細雪』(上)(中)(下)
	38	壺井栄	『二十四の瞳』
	39	外山滋比古	『思考の整理学』

	通し 番号	著者	作品名
な	40	中勘助	『銀の匙』
	41	中島敦	『李陵・山月記』
	42	中原中也	『中原中也全詩集』
	43	梨木香歩	『西の魔女が死んだ』
	44	夏目漱石	『ころろ』
	45	夏目漱石	『坊っちゃん』
	46	野坂昭如	『アメリカひじき・火垂るの墓』
は	47	灰谷健次郎	『兎の眼』
	48	原田マハ	『楽園のカンヴァス』
	49	樋口一葉	『にごりえ・たけくらべ』
	50	百田尚樹	『永遠の0』
	51	福岡伸一	『生物と無生物のあいだ』
	52	星新一	『ボッコちゃん』
	53	堀辰雄	『風立ちぬ・美しい村』
ま	54	松本清張	『砂の器』(上)(下)
	55	三浦綾子	『氷点』(上)(下)
	56	三浦しをん	『風が強く吹いている』
	57	三島由紀夫	『春の雪 豊饒の海・第1巻』
	58	宮沢賢治	『注文の多い料理店』
	59	宮沢賢治	『新編 銀河鉄道の夜』
	60	宮本輝	『星々の悲しみ』
	61	向田邦子原作	『阿修羅のごとく』
	62	武者小路実篤	『友情』
	63	村上春樹	『海辺のカフカ』(上)(下)
	64	紫式部 著；玉上琢彌 訳注	『源氏物語(1) 付現代語訳』(全10冊)
	65	森絵都	『カラフル』
	66	森鷗外	『山椒大夫・高瀬舟・阿部一族』
	67	森鷗外	『阿部一族・舞姫』
や	68	山崎豊子	『白い巨塔』(全5巻)
	69	山本有三	『路傍の石』
	70	湯本香樹実	『夏の庭』
	71	吉野源三郎	『君たちはどう生きるか』
わ	72	鷲田清一	『哲学の使い方』

	通し 番号	著者	作品名
A	73	L・M・オルコット 著;吉田勝江 訳	『若草物語』(全4巻)
C	74	カミュ 著;窪田啓作 訳	『異邦人』
	75	レイチェル・カーソン 著; 青樹繁一 訳	『沈黙の春』
	76	アガサ・クリスティー 著; 青木久恵 訳	『そして誰もいなくなった』
	77	アーサー・C・クラーク 著; 伊藤典夫 訳	『2001年宇宙の旅』
D	78	ディケンズ 作;脇明子 訳	『クリスマス・キャロル』
	79	ドストエフスキー 著; 亀山郁夫 訳	『カラマーゾフの兄弟』(全5巻)
	80	コナン・ドイル 著;延原謙 訳	『シャーロック・ホームズの冒険』
	81	マーカス・デュ・ソーイ 著; 富永星 訳	『素数の音楽』
	82	アレクサンドル・デュマ 作; 生島遼一 訳	『三銃士』(上)(下)
F	83	アンネ・フランク 著; 深町/真理子 訳	『アンネの日記 増補新訂版』
	84	ヴィクトール・E・フランクフル 著; 池田香代子 訳	『夜と霧』
H	85	ヘミングウェイ 著;福田恒存 訳	『老人と海』
	86	O・ヘンリー 著;小川高義 訳	『賢者の贈りもの O・ヘンリー傑作選1』
	87	ヘルマン・ヘッセ 著;高橋健二 訳	『車輪の下』
	88	ユゴー 著;佐藤朔 訳	『レ・ミゼラブル』
I	89	カズオ・イシグロ 著;土屋政雄 訳	『日の名残り』
J	90	トーベ・ヤンソン 著;下村隆一 訳	『ムーミン谷の彗星』
K	91	フランツ・カフカ 著;高橋義孝 訳	『変身』
L	92	C・S・ルイス 作;瀬田貞二 訳	『ライオンと魔女 ナルニア国ものがたり1』
M	93	マーガレット・ミッチェル 著; 大久保康雄 竹内道之助 訳	『風と共に去りぬ』(全5巻)
	94	L・M・モンゴメリ 著; 村岡花子 訳	『赤毛のアン 赤毛のアンシリーズ1』
P	95	エドガー・アラン・ポー 著; 西崎憲 編訳	『エドガー・アラン・ポー短篇集』
S	96	サン＝テグジュペリ 作;内藤濯 訳	『星の王子さま』
	97	シェイクスピア 著;松岡和子 訳	『ロミオとジュリエット シェイクスピア全集2』
T	98	J・R・R・トールキン 著; 瀬田貞二 田中明子 訳	『新版 指輪物語 第一部 旅の仲間』(全10巻)
	99	トルストイ 著;木村浩 訳	『アンナ・カレーニナ』(上)(中)(下)
W	100	J・ウェブスター 著;松本恵子 訳	『あしながおじさん』

『甲南の100選』の見方

タイトルの通し番号、『書名』（文庫名）、著者名、出版社、ISBN、請求記号、「お勧めの点」が記載されています。

その本のあらすじや内容は、書店のホームページなどで図書検索の画面からISBNの数字を入力して検索すると、すぐに調べられます。

○ 『 書 名 』（文庫名）			
↑ 通 し 番 号			著者名
			出版社
	請求記号		ISBN
○ 『 書 名 』（文庫名）			
↑ 通 し 番 号			著者名
			出版社
	請求記号		ISBN
			お勧めの点

※ISBNとは：

国際標準図書番号（International Standard Book Number）の略。

書籍を特定するための番号。

裏表紙に、ISBN△△△-▲▲-●●-○○○○○○○-■の形で記載されています。

※表紙が2冊記載されている：

大きい方は本学が所有しているもの、小さい方は現在購入することができる本の表紙です。

1 『蜘蛛の糸・地獄変』 (角川文庫)



913.6/ア

芥川龍之介 著

KADOKAWA

ISBN 9784041033142

『蜘蛛の糸』は人間のエゴがつまっていて芥川の中で最も好きな作品です。この作品以外にも名作揃いです。短編で読みやすいので是非読んでみてください。

※カバーの絵柄は(株)かまわぬのてぬぐい柄を使用しています。

2 『羅生門・鼻』 (新潮文庫)



913.6/ア



芥川龍之介 著

新潮社

ISBN 9784101025018

『鼻』－この作品は作者が夏目漱石から絶賛され文壇へ第一歩を踏み入れるきっかけになったものです。古文風の表現もところどころありますが、ユーモアに富んでいて読みやすいです。

『羅生門』－教科書に載る作品。人のエゴイズムを感じました。

3 『蒼穹の昴』 (全4冊) (講談社文庫)



913.6/ア/1

浅田次郎 著

講談社

ISBN 9784062748919

中国清朝末期の実在の人物と架空の人物をうまく融合させつつ描かれた超大作です。また、実際の事件を題材にしているので、歴史の勉強にもなると思います。重厚感あふれるこの世界に浸ってみてください。この作品には続編として『珍妃の井戸』『中原の虹』等があります。

4 『バッテリー』 (全6巻) (角川文庫)



913.6/ア/1

あさのあつこ 著

KADOKAWA

ISBN 9784043721016

世間にありふれた、ただのスポ根小説ではありません。同世代の主人公たちが、何を感じ、どう殻を破っていくのか。主人公と同じ年齢の時、彼の先輩と同じ年齢になった時、自分が持つ感想は微妙に変わっていきます。何巻もあって長いですが友情だけでなく、いろいろなことが学べるお話です。一度読んだことがある人にもおすすめです。

5 『アーサー王物語』



933.8/A

阿刀田高 文

講談社

ISBN 9784062680127

イギリスの英雄アーサー王を中心にした騎士の物語です。このお話を知ると、いろいろなものがこの話の影響を受けていることに気付くと思います。アーサー王伝説に関する本は他にもたくさんありますので、興味を持った人は、訳本をはじめ英文でも読んでみてください。

6 『砂の女』（新潮文庫）



913.6/ア



安部公房 著

新潮社

ISBN 9784101121154

状況の描写が多いためイメージしやすく、思い浮かべながら読むことができます。最後の、男の選択の理由は、読んだ当時にはわからず、高3の今でもはっきりとはわかりませんが、その選択に男の人生観がつまっているような気がします。

7 『図書館戦争 図書館戦争シリーズ(1)』（角川文庫）



913.6/ア/1

有川浩 著

KADOKAWA

ISBN 9784043898053

今、自分が享受している「表現の自由」に思いを馳せて読むもよし、個性的な登場人物が繰り広げるラブコメに重点を置いて読むもよし、いろいろな読み方ができる作品です。色々な角度から何度も楽しんでみてください。

8 『ゆびさきの宇宙：福島智・盲ろうを生きて』



289.1/F

生井久美子 著

岩波書店

ISBN 9784000254090

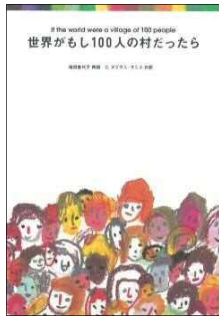
ヘレン・ケラーと同じような障害を持つ福島さんのことを書いた本です。福島さんは神戸の出身で本校に講演にもきてくださいました。この本には心にとまる言葉がたくさん詰まっています。

9 『世界がもし100人の村だったら If the world were a village of 100 people 』

池田香代子 再話 ; C・ダグラス・ラミス 対訳

マガジンハウス

ISBN 9784838713615



304/I/1

100人の村という小さな世界で考えることで、より身近に世界の問題を感じることができます。性別、人種だけでなく言語、富、車の有無など様々な切り口があって面白いです。絵本でとても読みやすいので、ぜひ一度読んでください。

10 『父と暮せば』（新潮文庫）

井上ひさし 著

新潮社

ISBN 9784101168289



912.6/イ

映画化もしているので、知っている人も多いと思います。原爆にあった美津江が立ち直っていくお話で、美津江のがんばっていく様子がとても良いです。戯曲になっているので、読みやすいと思います。

11 『山椒魚』（新潮文庫）

井伏鱒二 著

新潮社

ISBN 9784101034027



913.6/イ

文豪といわれる作家の中でも井伏鱒二は比較的読みやすく、また「屋根の上のサワン」など短編もたくさん入っているので中学生にも飽きずに読んでもらえると思います。

12 『精霊の守り人』（新潮文庫）

上橋菜穂子 著

新潮社

ISBN 9784101302720



913.6/ウ

人の世と精霊たちの世が混在する世界のお話です。「守り人」シリーズという続きものなので、読みごたえバツグンです。物語の展開や人情の動きが細かく書かれており、物語の世界に没頭できます。ファンタジーが好きな人はぜひ一度読んでみてください。

13 『日本辺境論』(新潮新書)

内田樹 著

新潮社

ISBN 9784106103360



日本人の国民アイデンティティについてひたすら書かれています。日本人は偏狭性が強く、自我を持たないと序盤は批判的ですが、論理的に解いていくので理解しやすいです。共感できる説もあれば、反対に思うところもあり、自分の意見をしっかり考えることができました。

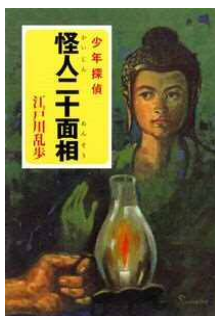
361.42/ウ

14 『怪人二十面相』(ポプラ文庫)

江戸川乱歩 著

ポプラ社

ISBN 9784591106198



変装上手の怪人二十面相と頭の切れる明智小五郎名探偵の頭脳戦です。みなさん、江戸川乱歩なんて古いと思っていませんか。いやいやそんなことはありません。一度読んでみるべし！です。

913.6/エ/1

15 『沈黙』(新潮文庫)

遠藤周作 著

新潮社

ISBN 9784101123158



背教を迫られる信徒の心理や、西洋と日本の根本的な思想の違いなど、普段絶対に知ることもしない感覚が見事に描かれています。不気味な緊張感にどんどん引き込まれます。将来のことを考えるにあたって大きな影響を受けました。

913.6/エ

16 『博士の愛した数式』(新潮文庫)

小川洋子 著

新潮社

ISBN 9784101215235



とても優しい気持ちになれる本です。赤の他人に対してこんなにも一生懸命になれることはないと思います。数学の話もたくさん出てきますが、全体に読みやすいです。

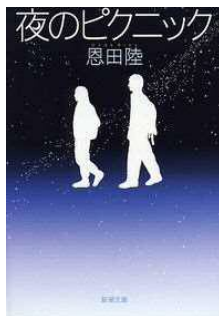
913.6/オ

17 『夜のピクニック』（新潮文庫）

恩田陸 著

新潮社

ISBN 9784101234175



高校生活最後のイベントである「歩行祭」。貴子は誰にも言えない秘密を清算するために賭けをしました。著者が経験したかのように細かく書かれています。ただひたすら歩くだけなのに高校生同士の掛け合いがよく書かれていて、気持ちの変化が分かりやすいです。

913.6/オ

18 『檸檬』（新潮文庫）

梶井基次郎 著

新潮社

ISBN 9784101096018



すごく日本語がきれいです。主人公の考える「美しいもの」の例えの表現がこの作者ならではの書き方のような気がします。また、赤や黄といったたくさんの色彩や光の明暗の対比が出てきて描写がとてもおもしろいです。

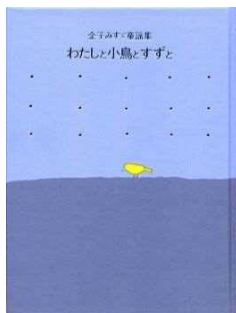
913.6/カ

19 『わたしと小鳥とすずと 金子みすゞ童謡集』

金子みすゞ 著

JULIA 出版局

ISBN 4882840707



金子みすゞの童謡が集められています。私がこの本を買った理由は表紙が綺麗だったからなのですが、読んでみると金子みすゞさんの言葉選びが素敵で心が温かくなりました。これを読むまでは金子みすゞさんの存在は知っている程度の人、この詩を読むと金子みすゞさんの人柄や温かさを感じられると思います。

911.58/K

20 『掌の小説』（新潮文庫）

川端康成 著

新潮社

ISBN 9784101001050



短いから内容が薄いというわけではなく、生命、美に対する強い憧れと幻想的な表現で描くという川端作品の特徴が凝縮されています。代表作『雪国』は難解なので、まずはこの掌編小説集を入門書として読むと、読みやすいと思います。

913.6/カ

21 『桜の森の満開の下・白痴 他十二篇』(岩波文庫)

坂口安吾 著

岩波書店

ISBN 9784003118221



『桜の森の満開の下』を読み始めるとオチなのかと読めてくるところがあります。それでも最後まで読み続けていくと、安吾ワールドながらもやはりオチになります。そこでも何故安吾は桜を怖ろしいといったのかに注目して読んでほしいです。

913.6/サ

22 『九十歳。何がめでたい』

佐藤愛子 著

小学館

ISBN 9784093965378



表紙に、頭に怒りマークを浮かべて新聞を読んでいるご年配の方がいます。その方が、私たちの大センパイ佐藤愛子さんです。直木賞を受賞されている佐藤さんは（直木賞の話もこの本に出てきます。とても面白いです。）持ち前のパワフルさと言葉の力で、私たち後輩の背中を押してくださっています。

甲914.6/S

23 『一瞬の風になれ 第一部 ーイチニツイター』(講談社文庫)

佐藤多佳子 著

講談社

ISBN 9784062764063



かけがえのない一瞬の高校生活、明るくひたむきな努力、部活というコミュニティを通して、身体だけでなく、成長していくしなやかな精神、仲間への純粋な愛情と思いやり、それらすべてがまぶしくて、そんな高校生活に憧れを抱きました。

913.6/サ/1

24 『岳物語』(集英社文庫)

椎名誠 著

集英社

ISBN 9784087494907



旅の短編がいくつかあります。岳少年がまだ父を見捨てていない頃の愛情のこもった美しい親子の物語で、とても良いお話です。少年の心情の変化を楽しむことができます。

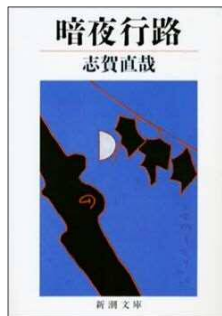
913.6/シ

25 『暗夜行路』（新潮文庫）

志賀直哉 著

新潮社

ISBN 9784101030074



913.6/シ

志賀直哉の兵庫県を舞台にした『城の崎にて』は教科書にも載っていますし、文学史を学ぶと必ず出てくるので知っている人もたくさんいると思います。この『暗夜行路』は、「小説の神様」と言われる志賀直哉の唯一の長編小説で、近代文学の最高峰であると言われる作品です。長いので大変ですが是非読んでみてください。短編小説もたくさんある作家なので、これを読む前でも後でも他の作品にも是非チャレンジしてみてください。

26 『きみの友だち』（新潮文庫）

重松清 著

新潮社

ISBN 9784101349220



913.6/シ

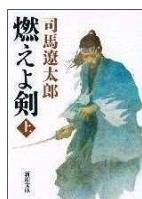
「友達」の本当の意味を、決して明るいだけでなく、様々な事情を抱える子どもたちの視点で描いてあります。中2の、いろいろ友達について悩んでいたところに、もしこの本を読んでいたら少し気が楽になっていたかもしれないと思いました。こんな友達もいるのだと教えてくれる本です。

27 『燃えよ剣』（上）（下）（新潮文庫）

司馬遼太郎 著

新潮社

ISBN 9784101152080



913.6/シ/1

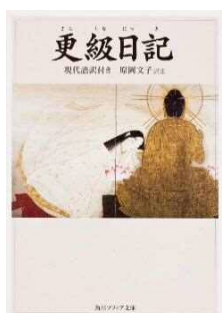
「バラガキのトシ」から「新選組・鬼の副長」そして「旧幕府陸軍奉行並」へ…。憧れの武士として戦い続けた土方歳三を中心とした新選組の物語です。クールな歳三から優しく美しい歳三まで、様々な歳三を見ることが出来ます。仲間のことを思いながらも、あえて鬼となる格好良さが伝わってきます。

28 『更級日記 現代語訳付き』（角川文庫）

菅原孝標女 著;原岡文子 訳注

KADOKAWA

ISBN 9784043734016



915.36/ス

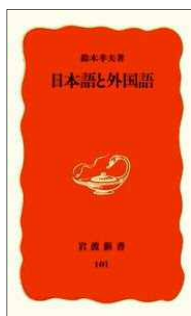
13歳から40年に及ぶ日記に書かれた、思い焦がれた生活をついに手にすることができなかった一生が、今の世にも胸に迫ります。

29 『日本語と外国語』（岩波新書 新赤版）

鈴木孝夫 著

岩波書店

ISBN 9784004301011



080/イ/101

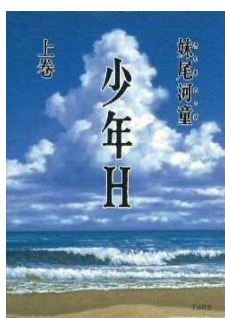
太陽の色や虹の色など身近なことから、日本語と外国語の違いを実感できます。英語だけでなく、いろいろな国との比較がおもしろいです。漢字についても書かれていて、多くの発見があります。異文化の魅力にも興味を持てます。

30 『少年H』（上）（下）（講談社文庫）

妹尾河童 著

講談社

ISBN 9784062645904



913.6/セ/1

神戸の町に住んでいる「H」という少年が主人公です。子どもの視点で書かれているので、よりリアルに感じます。少年の戦争での訓練の様子、出兵する子の気持ちと大人の気持ちなどを通して本当に戦争について考えさせられました。神戸の話ということもあり読みやすいです。

31 『智恵子抄』（新潮文庫）

高村光太郎 著

新潮社

ISBN 9784101196022



911.56/タ

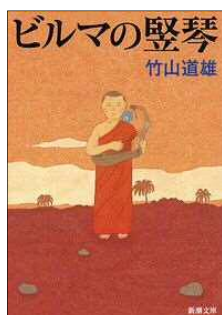
たくさん収録されている中で、特におすすめのものを三つ挙げます。「あどけない話」「千鳥と遊ぶ智恵子」「レモン哀歌」です。私は小学生の時に「あどけない話」に魅了され、今でも光太郎の詩は一番好きです。心を病んでいても、いつも無邪気で可愛らしい智恵子と、智恵子をいつもあたたかい眼差しで見つめ、心から智恵子を愛する光太郎。この二人の純粋で美しい愛を感じられる光太郎の詩を読むと、ほっこりと穏やかな気持ちになれることでしょう。情景を思い浮かべながら音読してみるのもおすすめです。疲れたときには是非どうぞ。

32 『ビルマの豎琴』（新潮文庫）

竹山道雄 著

新潮社

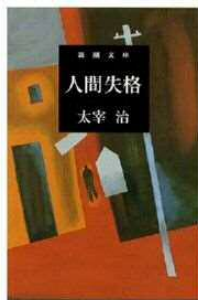
ISBN 9784101078014



913.6/タ

戦後ビルマに残った日本兵のお話です。最後は涙を誘います。中2で平和学習があるので、戦争のことを知るよいきっかけになります。中3以上の人も読んで損はない一冊です。

33 『人間失格』(新潮文庫)



913.6/ダ

太宰治 著

新潮社

ISBN 9784101006055

主人公の葉蔵の心の状態がとても暗く、読んでいて気の毒に思えてくる
ところもありますが、それでも太宰治の魅力がすごく伝わって来るところ
が好いです。廃人同様になっていく姿に人間の脆さが表現されています。

34 『走れメロス』(新潮文庫)



913.6/ダ

太宰治 著

新潮社

ISBN 9784101006062

初めて読んだのは教科書でした。『人間失格』を読んでからもう一度こ
の話を読むと、人間は信頼があってこそ依存できるのだと思えます。ラス
トは教科書には載せられていないセリヌンティウスの台詞があります。そ
れに注目してください。

35 『おちくぼ姫』(角川文庫)



913.6/タ

田辺聖子 著

KADOKAWA

ISBN 9784041314234

古典をアレンジした小説です。日本版シンデレラストーリーで古典が現
代語になっているので読みやすいです。内容も優雅で日本の美しさもあり
ます。古典が好きな人はもちろん嫌いな人もぜひ読んでみてください。私
はこれを読んで、昔よりも古文を読むのが楽しくなったように思います。

※カバーの絵柄は(株)かまわぬのてぬぐい柄を使用しています。

36 『自選谷川俊太郎詩集』(岩波文庫)



911.56/タ

谷川俊太郎 著

岩波書店

ISBN 9784003119211

173篇が精選されて載っています。私も全部の詩は読んでいません。気にな
ったところだけ楽しむというのもありかと思います。

37 『細雪』(上)(中)(下) (角川文庫)



913.6/タ/1

谷崎潤一郎 著

KADOKAWA

ISBN 9784044001308

作中、しよっちゅう芦屋や灘、三宮など私たちの生活圏内の地名が出てきます。会話に、少し古くて上品な関西弁が使われているので、とても読みやすいです。

※カバーの絵柄は(株)かまわぬのてぬぐい柄を使用しています。

38 『二十四の瞳』(新潮文庫)



913.6/ツ

壺井栄 著

新潮社

ISBN 9784101102016

「おなご先生」といつも懐いていた子どもたちが大きくなり戦争に行きます。子どもたちの成長の様子がおすすめです。決して裕福なわけではないけれど、毎日に幸せを感じていて一生懸命生きている姿は立派で、私たちは見習わなければいけないと思います。

39 『思考の整理学』(ちくま文庫)



141.5/ト

外山滋比古 著

筑摩書房

ISBN 9784480020475

東大・京大生が根強く支持する異例のロングセラー。「知」という営みに対する向き合い方を考える上で、まさに礎となる一冊です。難しいところもありますが、ぜひ挑戦して読んでください。考えることの楽しさを満喫させてくれる本です。

40 『銀の匙』(岩波文庫)



913.6/ナ



中勘助 著

岩波書店

ISBN 9784003105115

作者の自伝的小説です。夏目漱石が絶賛した小説で、文章が美しく何度も読みたくなる本です。

41 『李陵・山月記』（新潮文庫）

中島敦 著

新潮社

ISBN 9784101077017



『山月記』は昔の中国を舞台とする作品です。作者は昭和の文豪の一人で、隠れた名作が多くあります。教科書にも載っていて、読みごたえがあるので是非読んでください。

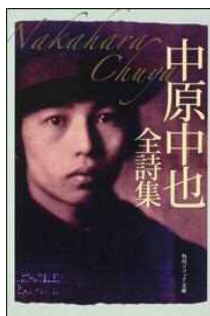
913.6/ナ

42 『中原中也全詩集』（角川ソフィア文庫）

中原中也 著

KADOKAWA

ISBN 9784041171042



一つ一つが読みやすく、素直に心に響いてきます。生きているのが、ただかなしい、と思うのではなく、こんな時期もあったなぁと振り返ることができたらいいと思います。

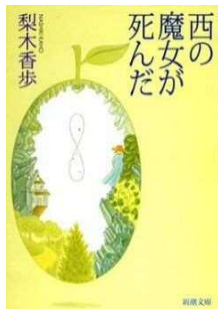
911.56/ナ

43 『西の魔女が死んだ』（新潮文庫）

梨木香歩 著

新潮社

ISBN 9784101253329



この「魔女修業」は自分の意志を強くし、何事も自分で決めるという地味なのですが、祖母がまいに魔女の修業として教えていたことは「生きる楽しさ」です。まいと祖母の深い絆に気付くこともできると思います。とても心温まるお話です。

913.6/ナ

44 『こころ』（新潮文庫）

夏目漱石 著

新潮社

ISBN 9784101010137



「私」と「先生」の出会いから、「先生」の壮絶な人生を少しずつ知っていくことになります。最後は衝撃的で、止まらなくなります。この本は学校の授業で出会いました。私は普段ならこんな本は読みませんが、授業で読んでいくうちに、ストーリーに惹かれていき、夢中で最後まで読んでいました。現代とは違った雰囲気の本で、面白いのでぜひ読んでみてください。

913.6/ナ

45 『坊っちゃん』(新潮文庫)



夏目漱石 著

新潮社

ISBN 9784101010038

個性的な登場人物がたくさんでできます。自分の気持ちに正直でまっすぐすぎる坊っちゃんとその周囲の人々の交流が面白いです。昔の話だからおもしろくないと思うかもしれませんが、共感できる場所もたくさんあります。

913.6/ナ

46 『アメリカひじき・火垂るの墓』(新潮文庫)



野坂昭如 著

新潮社

ISBN 9784101112039

『火垂るの墓』は、主人公の清太が14歳であるので、親しみを感じながら読むことができます。アニメを見て知っている人もいると思いますが、原作をぜひ読んでみてください。

913.6/ノ

47 『兎の眼』(角川文庫)



灰谷健次郎 著

KADOKAWA

ISBN 9784043520015

従来の「教室の風景」を完全に否定された「先生」が、子どもだけでなく自分も「教育」することで、子どもと先生を対等の人間として描いています。学校は勉強だけを教える場所ではないということに気付かされる、とても良い本です。衝撃と感動をあたえてくれます。

913.6/ハ

※カバーの絵柄は(株)かまわぬのてぬぐい柄を使用しています。

48 『楽園のカンヴァス』(新潮文庫)



原田マハ 著

新潮社

ISBN 9784101259611

大富豪のお屋敷に招かれた主人公が一枚の絵を巡って色々な人と関わり、その絵の真実を追い求める物語です。ニューヨーク近代美術館が舞台になっていて、たくさん絵画が出てくるので、絵が好きな人にぜひおすすめです。ニューヨークの美しい街も出てきて素敵な気分になれます。

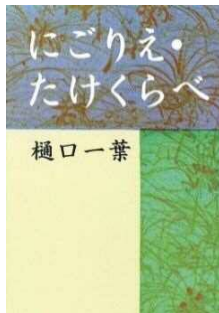
913.6/ハ

49 『にぎりえ・たけくらべ』（新潮文庫）

樋口一葉 著

新潮社

ISBN 9784101016016



913.6/ヒ

この本は昔の言葉で書かれているので、私は文章の意味を完全には理解できませんでした。だからこそ、より一層想像力がかき立てられます。今の時代ではあまり見る事のなくなった下駄・着物・華やかな吉原の町…。美しくも残酷な吉原で繰り広げられる儚い恋物語に私は心を奪われました。本を開けば、そこには美しい「日本」が広がっています。是非読んでみてください。

50 『永遠の0』（講談社文庫）

百田尚樹 著

講談社

ISBN 9784062764131



913.6/ヒ

一人の人物の本当の姿を丁寧に紐解いていきます。今まで知らなかった特攻隊や戦争の裏面まで、読みやすい文章で書かれているので、興味を持つきっかけには最適だと思います。また、戦争の痛ましさだけでなく、愛、友情、上下関係など人間関係も繊細に描かれていて勉強にもなり、これだけ人を愛せるのかと感動もする一冊です。

51 『生物と無生物のあいだ』（講談社現代新書）

福岡伸一 著

講談社

ISBN 9784061498914



460.4/フ

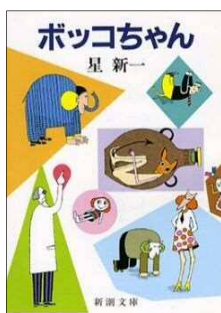
私たちと植物は同じ生物。しかし、私たちと石は違う。石は無生物だから。私たちとウィルスは実は違う。ウィルスは自分で増えることができないから。でも、ウィルスと石は違う。どちらも無生物なのに、なぜ？そんな疑問を解決するヒントをくれます。

52 『ポッコちゃん』（新潮文庫）

星新一 著

新潮社

ISBN 9784101098012



913.6/ホ

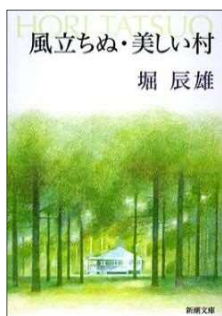
星新一さんの本は小学生の時から読んでいた私のバイブルです。たくさんの短編小説が入っていて、どれもバラエティに富んでいます。「その発想！？」という驚きと笑うに笑えないシニカル＆ブラックな結末もよいです。今は亡き星さんのワールドが独特で、現実を忘れられます。

53 『風立ちぬ・美しい村』（新潮文庫）

堀辰雄 著

新潮社

ISBN 9784101004020



913.6/ホ

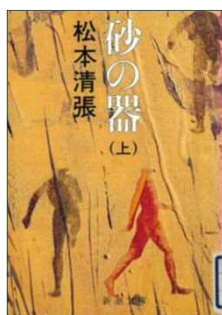
病に侵された婚約者の節子。忍び寄る死の影におびえながらも、二人きりで過ごす日常のささやかな出来事に限りない幸福を見出すという筆者自身の体験に基づいて描かれています。作中の「風立ちぬ、いざ生きめやも。」という有名な詩句は作者がヴァレリーの詩を訳したものです。

54 『砂の器』（上）（下）（新潮文庫）

松本清張 著

新潮社

ISBN 9784101109244



913.6/マ/1

かつて社会派推理小説ブームを起こした作者の代表作です。映画化はもちろん何度もドラマ化しているので、観たことのある人もいると思います。複雑に絡んだ糸を解きほぐすように真実に迫っていくので、長編ながらどんどん読めます。

55 『氷点』（上）（下）（角川文庫）

三浦綾子 著

KADOKAWA

ISBN 9784041437032



913.6/ミ/1

裕福で幸せだった家族は、娘の死で変化します。娘を殺害した犯人の子どもを引き取る一家。愛と憎しみが交錯している作品です。言葉遣いは少し古いですが、読みやすいです。最後は号泣間違いなしです。

56 『風が強く吹いている』（新潮文庫）

三浦しをん 著

新潮社

ISBN 9784101167589

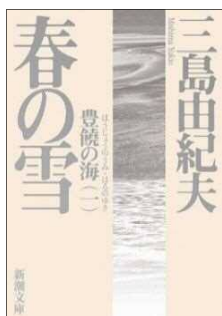


913.6/ミ

皆さん、お正月に一度は見たことがある箱根駅伝が舞台です。その裏側の頑張りや苦勞、情熱、様々な想いが詰まった1冊です。自分の努力を肯定して、後押ししてくれるような、そういう本です。強くなりたい人、必読です。

57 『春の雪 豊饒の海・第1巻』 (新潮文庫)

ほうじょう



913.6/ミ/1

三島由紀夫 著

新潮社

ISBN 9784101050218

4冊あるので読むのはしんどいかもしれませんが、『春の雪』と『天人五衰』だけでも読んでほしいです。何度も読み返していますが、毎回新たに気付かされることが多いです。内容はもちろんのこと三島由紀夫が書く洗練された美しい文章を、表現を感じてみてください。最初は難しく感じますが、その美しい世界に段々惹き込まれる作品です。

58 『注文の多い料理店』 (新潮文庫)



913.6/ミ

宮沢賢治 著

新潮社

ISBN 9784101092065

自分が想像していた展開とは違っていたので、先がとても気になります。何より店の丁寧な言葉づかいが面白いです。『なめとこ山の熊』など他の短篇もたくさん入っているので、飽きずに読めます。宮沢賢治のセンスや特徴がよくわかります。

59 『新編 銀河鉄道之夜』 (新潮文庫)



913.6/ミ

宮沢賢治 著

新潮社

ISBN 9784101092058

自然の美しさが目に見えるような様子で描かれています。動物や星なども人間のように話し、言葉を発せないものにも耳を傾ける宮沢賢治の良さが詰まっています。他にも「よだかの星」「セロ弾きのゴーシュ」なども収録されています。初期系第三次稿(※)など一般的なものと内容が異なるものもありますので、そちらも是非読んでみてください。

※『宮澤賢治全集7』(ちくま文庫)等に収蔵されています。)

60 『星々の悲しみ』 (文春文庫)



913.6/ミ

宮本輝 著

文藝春秋

ISBN 9784167348243

大阪に住む予備校生の主人公は、図書館で読書に耽(ふけ)っており、そこで同じ予備校に通う有吉と草間に出会います。リアルな友情や思春期の葛藤が描かれていて、共感できるところがあります。

61 『阿修羅のごとく』(文春文庫)



913.6/ム

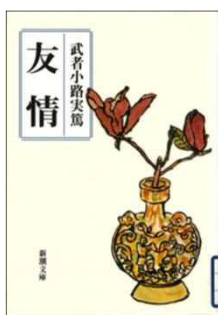
向田邦子 原作

文藝春秋

ISBN 9784167277178

未亡人の長女は不倫中、次女は夫の浮気を疑い、三女は独身の寂しさに心がすさみ、四女はボクサーの卵と同棲、そして母は…？ という多少問題アリな家族を描いています。読むと妙に家族というものが愛おしく思える作品だと思います。

62 『友情』(新潮文庫)



913.6/ム



武者小路実篤 著

新潮社

ISBN 9784101057019

野島は、美しい杉子に出会って以来、片思いの日々を送ります。恋をとるか、友情をとるか…皆さんもぜひ「彼」の立場に立って考えてみてください。

63 『海辺のカフカ』(上)(下) (新潮文庫)



913.6/ム/1

村上春樹 著

新潮社

ISBN 9784101001548

二つの一見何の関係もなさそうな話が交互に進められていくので、飽きてきません。また、読み進めて行くにつれて話が交差していくところと、謎が謎のままで、結末の解釈を読者にゆだねられているところがオススメです。

64 『源氏物語(1) 付現代語訳』(全10冊) (角川ソフィア文庫)



913.36/ム/1

紫式部 著;玉上琢彌 訳注

KADOKAWA

ISBN 9784044024017

平安貴族の内面を描く日本古典文学。それぞれの巻のあらすじ、原文、現代語訳がすべて載っています。とても読みやすくて、テストや模試によく源氏物語は出てくるので、勉強にも向いていると思います。(源氏物語はいろいろな訳本・解説本があり、紹介した作品以外にも様々なものを推薦してくれています。)

65 『カラフル』(文春文庫)

森絵都 著

文藝春秋

ISBN 9784167741013



913.6/モ

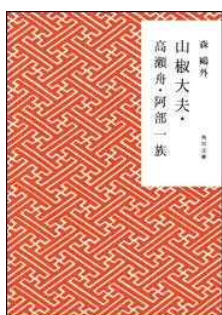
この作品では、人の怒りや悲しみ、喜びなど様々な感情が色で表され、黒い色、鮮やかな色、混ざり合った色がそのまま人の心の複雑さを表現しています。その複雑な色も一人ではなく、人と人とが手を取り合えば、鮮やかな色になります。そのようなあたたかみがとても魅力的な作品です。

66 『山椒大夫・高瀬舟・阿部一族』(角川文庫)

森鷗外 著

KADOKAWA

ISBN 9784041002872



913.6/モ

『高瀬舟』は、人間の欲と安楽死をテーマにした短編小説です。島流しにされる牢人を島へ送っていく途中で語られる、牢人の身の上話です。短いお話ですが、非常に濃い内容の本です。決して明るい内容ではないですが、深く考えさせられる一冊です。

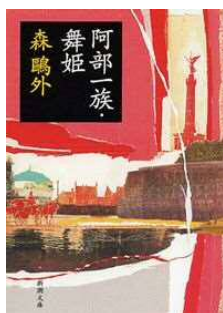
※カバーの絵柄は(株)かまわぬのてぬぐい柄を使用しています。

67 『阿部一族・舞姫』(新潮文庫)

森鷗外 著

新潮社

ISBN 9784101020044



913.6/モ

ベルリンに留学した太田豊太郎は、留学先で踊り子のエリスと恋仲になり、自由と自我に目覚めます。太田豊太郎が日本のエリートである名誉を守るか、自分の恋人のエリスとの関係を保つか、どちらを優先するか、選ぶ場面が興味深いです。(『舞姫』)

68 『白い巨塔』(全5巻) (新潮文庫)

山崎豊子 著

新潮社

ISBN 9784101104331



913.6/ヤ/1

何度か映画化・ドラマ化されている作品です。医学界の腐敗が描かれていますが、ただそれだけでなく、個性的な登場人物たちのそれぞれの思惑が蠢(うごめ)く人間ドラマが描かれています。読みだすと続きが気になり、物語の濃密さに圧倒されます。

69 『路傍の石』（新潮文庫）

山本有三 著

新潮社

ISBN 9784101060095



頼る人もなく一人で生きていく少年には、いろいろな困難が待ち受けています。少年に共感できる部分もあり、読みながらドキドキさせられます。

913.6/ヤ

70 『夏の庭』（新潮文庫）

湯本香樹実 著

新潮社

ISBN 9784101315119



本を読むのが苦手な人でも楽しく読めます。人との関わり方によって、その人自身の見方を変えたり、自分の考えを考え直せたりすることがわかります。

913.6/ユ

71 『君たちはどう生きるか』

吉野源三郎 著

マガジンハウス

ISBN 9784838729463



コペル君を自分に置き換えて読んでいくことで、自分の視野を広げ生きる意味を深く考えることができます。何回読んでも新たな発見があり、飽きません。価値観や考え方を見直すきっかけになる一冊です。中学生のうちにぜひ読んでください。

159.5/Y

72 『哲学の使い方』（岩波新書 新赤版）

鷺田清一 著

岩波書店

ISBN 9784004315001



語りかけるような口調で書かれた哲学書です。哲学の入門書とするにもお勧めで、実生活から問いの世界に入っていくきっかけとなります。とは言え、わかりにくい表現もあり、その点は鷺田さんも悩んだように感じられました。やはり哲学は格闘技です。

080/イ/1500

73 『若草物語』(全4巻) (角川文庫)

L・M・オルコット 著;吉田勝江 訳

KADOKAWA

ISBN 9784042141174



私が小学生の時から愛読しているのは、特に『続若草物語』です。その中で、末っ子エイミーが上流階級へのあこがれを抱き、様々な困難や辛い出来事がありながらも、努力し奮闘する姿はとても魅力的です。

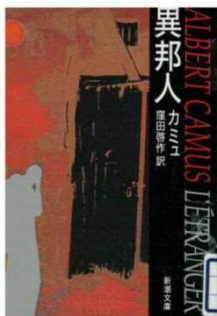
933.6/オ/1

74 『異邦人』(新潮文庫)

カミュ 著;窪田啓作 訳

新潮社

ISBN 9784102114018



社会共通の道德観と異なった倫理観を持つムルソーは「異邦人」として扱われ、通常の論理的な一貫性が欠如した存在となっています。不条理を追求した作品だということも考えさせられます。

953.7/カ

75 『沈黙の春』(新潮文庫)

レイチェル・カーソン 著;青樹築一 訳

新潮社

ISBN 9784102074015



今ではDDTなどの有害な殺虫剤は使用禁止になっているので、この本の内容は古いですが、人間の自然破壊は今も昔も変わりません。この本を読んで少しでも自然破壊への関心が深まればいいと思います。

519/カ

76 『そして誰もいなくなった』(クリスティー文庫)

アガサ・クリスティー 著;青木久恵 訳

早川書房

ISBN 9784151310805



ある孤島に集められた面識のない10人の男女の共通点は、過去に罪を犯したことです。そして、不気味な童謡の歌詞通りに一人ずつ殺されていきます。とても読みやすいです。最後まで犯人がわからず、「誰だろう?」と想像しながら読むのが楽しいです。

933.7/ク/80

77 『2001年宇宙の旅』(ハヤカワ文庫SF)



933.7/ク

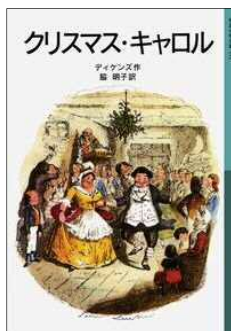
アーサー・C・クラーク 著;伊藤典夫 訳

早川書房

ISBN 9784150110000

宇宙船ディスカバリー号に乗る飛行士と人工知能HALが木星探査に向かうお話です。AIのHALの暴走シーンから後半の展開は驚きの連続です。SF好きには読んでほしい本です。

78 『クリスマス・キャロル』(岩波少年文庫)



080.9/イ/551

ディケンズ 作;脇明子 訳

岩波書店

ISBN 9784001145519

けちで頑固でひねくれ者のスクルージに、イブの夜かつての仕事の相棒・マーレイの亡霊があらわれます。人生で何を大切にすべきなのかを教えてくれる、とてもいいお話です。

79 『カラマーゾフの兄弟』(全5巻) (光文社古典新訳文庫)



983/ド/1

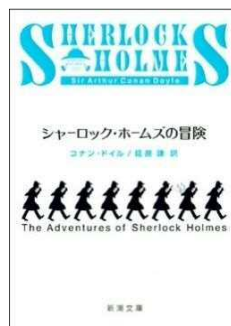
ドストエフスキー 著;亀山郁夫 訳

光文社

ISBN 9784334751067

長くて暗い作品のように思われますが、読み終えた時に達成感を得られるはずです。生きるとは? 憎しみとは? 信仰とは? など、人間の根本的愛について考えさせられます。「世界一の小説」だと言われている本です。少し長めですが、最近新訳が出版されました。読みづらくても最後まで読んでください。他の小説百冊分くらいの価値があります。

80 『シャーロック・ホームズの冒険』(新潮文庫)



933.6/ド

コナン・ドイル 著;延原謙 訳

新潮社

ISBN 9784102134016

ミステリ史上最大にして最高の名探偵シャーロック・ホームズの推理と活躍をワトソンが綴るシリーズです。トリックや犯人を一緒に推理するもよし、ワトソンのようにトリックを解き明かすホームズの聡明さに感嘆するもよし、一度物語の中に引き込まれたら戻れないほど面白く、とまりません。

81 『素数の音楽』(新潮文庫)



マーカス・デュ・ソーティイ 著;富永星 訳

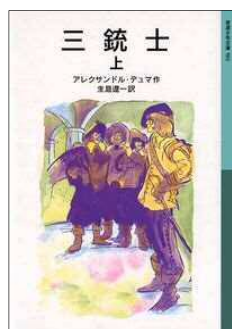
新潮社

ISBN 9784102184219

素数が奏でる音楽を聴こうとした天才たちを描くノンフィクションです。作曲家について生き生きと書かれた本が、音楽がわからず音楽についての知識のない人の関心を引くように、この本も数学アレルギーの人も一連の登場人物を描写するデュ・ソーティイの筆致を楽しむことができます。

412/ソ

82 『三銃士』(上)(下) (岩波少年文庫)



アレクサンドル・デュマ 作;生島遼一 訳

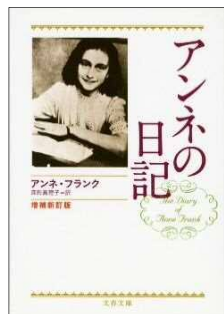
岩波書店

ISBN 9784001145618

中世ヨーロッパが舞台のお話です。三銃士の世界観は特に必見です。「ダルタニャン」と「アトス」「アラミス」「ポルトス」のかけあいは、コミカルで楽しいです。

080.9/イ/561

83 『アンネの日記 増補新訂版』(文春文庫)



アンネ・フランク 著;深町真理子 訳

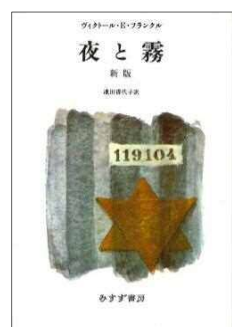
文藝春秋

ISBN 9784167651336

ナチ占領下の異常な環境の中で13歳から15歳という思春期を過ごした少女の夢と悩みが、よみがえります。『アンネの日記』が二種類存在し、その二つを分かりやすく編集しているので読みやすいです。みなさんと同じ年頃の女の子が、戦争の中で何を見、何を感じたのかを知ってほしいです。

949.35/フ

84 『夜と霧』



ヴィクトール・E・フランクル 著;池田香代子 訳

みすず書房

ISBN 9784622039709

この本は強制収容所に連れて行かれた心理学者の手記です。毎日の苦しみは淡々と描かれています。過酷な状況の中でも生きることを決して諦めなかった著者の強さに感動し、今の生活をできることが素晴らしいと感じられたことが良かったです。

946/F

85 『老人と海』 (新潮文庫)



933.7/へ



自然描写が細かく表現されていて、その場の風景が浮かび臨場感があります。自然にはかなわない人間の存在が弱く、老人にも関わらず、最後まで諦めないたくましさなどが凝縮されています。高校生だからこそ一度は読んでほしい本です。

ヘミングウェイ 著;福田恒存 訳

新潮社

ISBN 9784102100042

86 『賢者の贈りもの O・ヘンリー傑作選1』 (新潮文庫)



933.7/へ/1

「緑のドア」ー緑のドアは一つではなかったのに、たまたまそのドアに辿り着くという運命的で意外な結末なところが良いです。他にも「賢者の贈りもの」など有名な作品が掲載されています。

O・ヘンリー 著;小川高義 訳

新潮社

ISBN 9784102072042

87 『車輪の下』 (新潮文庫)



943.7/へ

とても暗い話のように最初は思えたのですが、どんどん引き込まれていきました。主人公・ハンスに共感する部分も多々あり、読後に「ハンスやハンスの周りの人はどうすれば良かったのか」とか「自分はこうしたらよいか」というようなことを自分自身でよく考えることができます。

ヘルマン・ヘッセ 著;高橋健二 訳

新潮社

ISBN 9784102001035

88 『レ・ミゼラブル』 (新潮文庫)



953.6/ユ/1

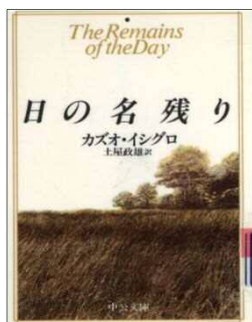
難しくて、最初はわからなかったのですが、何度も読むとよくわかってきました。ミュージカルや映画もいいですが、原作を読むと新たな発見があります。

ユゴー 著;佐藤朔 訳

新潮社

ISBN 9784102117019

89 『日の名残り』(中公文庫)



カズオ・イシグロ 著;土屋政雄 訳

中央公論新社

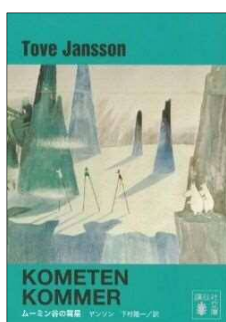
ISBN 9784122020634

2017年にノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロさんの、失われた伝統的な英国を描いた作品です。お屋敷の執事が主人公の、少し不思議な物語です。

(現在はハヤカワepi文庫から出版されています。ISBN 9784151200038)

933.7/イ

90 『ムーミン谷の彗星』(講談社文庫)



トーベ・ヤンソン 著;下村隆一 訳

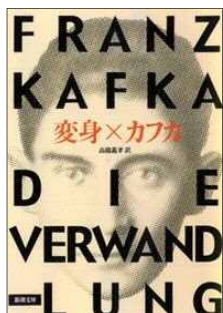
講談社

ISBN 9784062769327

キャラクターグッズの可愛くほのぼのとしたイメージとは裏腹に、原作はドライです。辛辣な台詞や、一癖あるろくでなしでも魅力的な人たちがいろいろ出てきます。それぞれが楽しそうに暮らしているのが素敵です。一度好きになると干渉しない家族のような心地よくて特別な存在になる本です。シリーズで是非読んでください。

949.83/ヤ/1

91 『変身』(新潮文庫)



フランツ・カフカ 著;高橋義孝 訳

新潮社

ISBN 9784102071014

虫になる前のザムザがどう生きていたか、家族はどんな人々か。虫になってからのザムザの生きる姿などの描写が丁寧で、作品全体の様相を冷静に見つめ直すと心に響くものがあります。

943.7/カ

92 『ライオンと魔女 ナルニア国ものがたり 1』(岩波少年文庫)



C・S・ルイス 作;瀬田貞二 訳

岩波書店

ISBN 9784001140347

全7巻で構成されているファンタジーです。現実では起こらない話ですが、読んでいくうちに話に引き込まれていきます。7巻とも主人公は違いますが、どの巻からでも仲間と戦い、絆が深くなることが伝わってきて、とても心温まる本です。

080.9/イ/034

93 『風と共に去りぬ』(全5巻) (新潮文庫)

マーガレット・ミッチェル 著;大久保康雄 竹内道之助 訳

新潮社

ISBN 9784102091012



933.7/ミ/1



南北戦争の勃発によって、スカレーットの生まれ育った、愛する土地タラは荒れていき、周りの人々もどんどん覇気がなくなっています。そんな中、決して自分の意志を曲げず、常に前を向いて生きていくスカレーットは本当に強いと感じました。

(現在は鴻巣友季子訳が出版されています。ISBN 9784102091067)

94 『赤毛のアン 赤毛のアンシリーズ1』(新潮文庫)

L・M・モンゴメリ 著;村岡花子 訳

新潮社

ISBN 9784102113417



933.7/モ/1

今まで読んできたあらゆる本の中で赤毛のアンは最も好きな主人公です。この本ではアンを通してモンゴメリの素晴らしい世界観を見ることができます。名作中の名作ですからぜひ学生時代に読んでください。純粋なアンや、プリンス・エドワード島の自然や、アンがその島の人々に関わっていくシーンなどは読んでみると、とても心が温かくなります。日常生活とは少し違うけれど、温かく穏やかな世界観を楽しんでください。

95 『エドガー・アラン・ポー短篇集』(ちくま文庫)

エドガー・アラン・ポー 著;西崎憲 編訳

筑摩書房

ISBN 9784480423214



933.6/ポ

どの話も短いので読みやすいです。怪奇的な要素が含まれていますが、『黄金虫』は暗号の解き方など描写がおもしろいのでお勧めです。

96 『星の王子さま』(岩波文庫)

サン＝テグジュペリ 作;内藤濯 訳

岩波書店

ISBN 9784003751312



953.7/サ

優しい日本語、作者自身が描いたかわいらしい挿絵で心が温くなる本です。また穏やかでユーモアに溢れた発言をする「王子」から学ぶことは多く、何度読んでもそのたびに新しい発見があります。

97 『ロミオとジュリエット シェイクスピア全集2』(ちくま文庫)

シェイクスピア 著;松岡和子 訳

筑摩書房

ISBN 9784480033024



932.5/シ/2

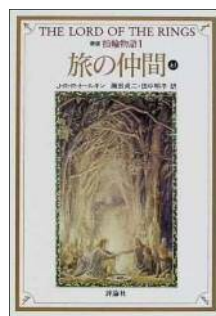
ヴェローナの街に対立するモンタギュー家とキャピレット家。しかしモンタギュー家のロミオとキャピレット家のジュリエットは恋に落ちてしまいます。映画化や舞台での上演も多い、シェイクスピアの有名な作品の一つです。イギリスの古典文学を楽しく読んでみてください。

98 『新版 指輪物語 第一部 旅の仲間』(全10巻) (評論社文庫)

J・R・R・トールキン 著;瀬田貞二 田中明子 訳

評論社

ISBN 9784566023628



933.7/ト/1

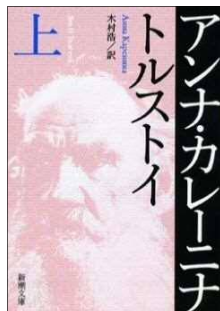
日本語版だと、追補編も合わせて10巻もあり、設定もとても細かいですが、ファンタジーというジャンルを生み出した名作とされているので、絶対に読んだほうがいいです。また『ロードオブザリング』として映画化もされているので、そちらも観てください。

99 『アンナ・カレーナ』(上)(中)(下) (新潮文庫)

トルストイ 著;木村浩 訳

新潮社

ISBN 9784102060018



983/ト/1

「最後の言葉をヴロンスキーは唇だけ使ってささやいた」など、人の動作、特に愛情面に関しての表現が実に官能的に描かれています。また、当時の貴族社会や生活様式、それに対して労働階級の暮らしや社会情勢など華やかな面と現実的な面の両方が分かる本です。

100 『あしながおじさん』(新潮文庫)

J・ウェブスター 著;松本恵子 訳

新潮社

ISBN 9784102082010



933.7/ウ



孤児院育ちのジュディはあしながおじさんに気に入られ、大学4年間の学費を負担してくれるかわりに、手紙を送る約束をします。ジュディの過ごす大学4年間の何気ない日常が、読んでいて共感でき、心がほのぼのします。

(現在は岩本正恵訳が出版されています。ISBN 9784102082034)